



# 天瑞山 大安寺 護寺会だより

編集・発行 大安寺護寺会広報部  
恵庭市大町4丁目2番25号 大安寺内  
TEL (0123) 34-1093  
FAX (0123) 33-8005  
ホームページURL <http://dianji.net>



平成29年11月 大本山 永平寺 参道

# 新年のご挨拶



大安寺護寺会 会長  
大安寺住職

押見 俊哉

新ご本尊さまの御前で様々な法要を勤められること、常に法悦を感じながらお勤めさせていただいている所です。

西暦二〇一八年（邦暦平成三〇年戊戌・仏紀二五八四年）を迎えて、謹んで大安寺檀信徒の皆様のご清祥と万福多幸をご祈念申し上げます。

檀信徒の皆様には、日頃より大安寺護寺の為に、ご理解とご協力をいただきておりますことに、改めてお礼を申し上げます。

昨年は特にお寺としての大きな事業は無く、通常の行事となりました。

一昨年の九月には、新ご本尊さまをお迎えする開眼法要を両祖報恩法要に併せて修行させていただきました。

最初の純粹な心をいつも胸に抱いていたいものです。 フツと吹いた毛を切ってしまうほどの切れ味鋭い剣でも、使つて磨かなければ直ぐに鈍刀となります。人の心も同じ。

新年を皆様は如何なる思いでお迎えでしょうか。何事も始まりが大事といいます。高祖道元禅師さまは、「一発菩提心を百千万発するなり」と仰せられています。「さあ修行するぞ！」という初めの発心（悟りへの求道心）を百千万回も起こそう、というのです。年のはじめに抱いた希望を日々忘れずに過ごしたいものです。

禪語に「吹毛（すいもう）」も用い了れば、急ぎ磨すべし」とあります。

新ご本尊さまの御前で様々な法要を勤められること、常に法悦を感じながらお勤めさせていただいている所です。

新年あけまして  
おめでとう  
ござります

理	理	理	理	理	理	理	理	理	理	理	理	理	理	副	理	事						
事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	計	部	長						
三	三	槙	早	野	西	梶	高	澤	佐	佐	櫻	小	川	川	榎	岩	近	小	佐	中	鏡	遠
浦	浦	田	坂	原	部	本	永	藤	木	田	玉	股	本	間	藤	林	藤	藤	勝	一	貴	充
勝	一	元	弘	敏	聰	子	勉	一	子	子	一	美	吉	一	男	尚	通	夫	雄	平	司	貢

# 新年のご挨拶



大安寺護寺会  
理事長  
遠藤 昭雄

新年明けましておめでとうございます。御家族お揃いで、希望に満ちた新年を迎えたことと存じます。

昨年は、恵庭市に於いては大きな災害もなく、平穏な一年を過ごして参りました。

しかしながら、国内に於いては、地震や水害等により被災された方々の事を考えますと、私達も普段の心構えが必要ではないかと考えています。

今年も農作物が豊富で、災害の無い一年でありますように願っております。

先にご決定を頂きました将来の大きな事業予定のため、応分の会費大安寺護寺会と致しましても、

のべ負担を頂き、恐縮をいたしながら、ご理解を頂きますと共に感謝を申し上げます。

今年は戌年でありますから、元気なイヌの姿を思いながら、家族が健康で過ごされることが大切であると思います。

願うところ世の中が平和で、円満な生活が出来ます事を切に願い、新年のご挨拶と致します。



石川県羽咋市 ようこう 永光寺 山岡鉄舟筆襖書



作・羽田野 収

平成三十年 元旦

地区幹事	地区幹事	地区幹事	地区幹事	地区幹事	地区幹事	地区幹事	地区幹事	地区幹事	地区幹事
横山山元茗三寺槌千田鈴佐工門及上石									
道本澤木茄島崎本田中木野藤脇川坂塚									
幹興 弘幸博 正義皓長時保善春隆									
勇男治仁信三裕傑行男一恭幸博雄幸									

# 大本山永平寺と曹洞宗祖師ゆかりの古刹をめぐる 秋の金沢・能登の旅を終えて

平成二十九年 十一月  
十三日～十六日

## 広報部

三泊四日の日程で、約十年ぶりとなる念願の本山永平寺参拝旅行が実施されました。鏡副理事長を団長に、総勢二十七名の大参拝団となりました。六ヶ所の寺院にお参りしてきました。

押見住職の奥様のご両親も参加され、小松空港から押見家の長女真耶さんも合流。日曜日のないお寺では、家族としてのめつたにない良い機会になつたのではないかと推察いたしました。

参拝がメインなので、お寺の様子を中心に書きます。一泊目、永平寺に宿泊。食事作法の説明の後、五觀の偈を唱え、夕食。黙々と感謝しながら箸を運ぶ。一汁五菜で、菓子も付く。思つたより多彩な料理をご馳走さまでした。その後、部屋に案内され、男性の部屋は畳四十畳敷きの大広間で、十二名が二列で並んでの就寝です。荷物整理後、入浴になり風呂場へ。十五人位入浴できる広さがあり、ゆるりと一日目の汗を流しました。さつぱりしたところで、次の修行場へ移動。大きな講堂で、雲水修行の様子を記録した映画「永平寺の一年」の観賞です。

翌日、朝三時頃から起き出し、四時には布団の整理を済ませ、全員静かに開始时刻を待つ。四時五十分部屋の前に集合し、大講堂にて、秋田修孝主任の話「心の持ち方」、入山数ヶ月の若いお坊さんは「生活につ



焼香の様子

か。お勤めのお坊さんも百名程度で、読経は何か、莊嚴な音楽でも奏でているような臨場感と冷え込んだ空気感とで、まさに身が引き締まる、不思議な感覚を覚えたものですね。途中、道元禅師様がおられる「承陽殿」に移り、係りから説明を受けてお参りしました。再び法堂で、今度は、大安寺参拝団としての焼香があり、その後再び承陽殿内に入り、大安寺の先代・先々代の位牌を前に押見住職の読経



先代・先々代の位牌

いての経験」の法話を拝聴しました。その後、法堂へ移動するのですが、季節柄かなり冷え込んだとみえ、お堂へ向かう廊下は外と同じで、ピンとした冷氣があたりを支配していました。朝のお勤めに参加するのも大きな目的の一つでした。今回は四つの団体が宿泊していく、およそ百名位でしょうか。読経は何か、莊嚴

とともに焼香し供養をしました。再々度、法堂に戻り、経本を手に大悲心陀羅尼を皆で読経しました。一連の朝のお勤めを終え、部屋に戻ったときには、三時間程が過ぎていました。

永平寺を後に「九谷満月」という九谷焼の窯元を見学した後、「なぎさドライブエイ」を走り、レストハウスで昼食。

午後からは、瑩山禅師の開創された「能登總持寺祖院」を参拝。明治三十一年、災禍により大部分を消失したのを機に本山が横浜に移転し、ここは別院となつたのだそうです。

係りの人に案内され、堂内を見学。山岡鉄舟の襖四枚があり、山水古木と調和し、風光幽玄な曹洞宗大本山としての面影が色濃く残っているように感じました。三日目は、朝一番で「永光寺」に向かい、その住職さんの説明を受けお参りしました。瑩山禅師が開山し、再び戻りここで遷化されたお寺です。ここにも鉄舟の筆になる襖書がありました。伝燈院は、曹洞宗の法燈を伝える五大祖師を中心に入人の像を奉祀した、独自形式の開山堂だそうで、ここへ行くには、梵鐘を一打するといふ作法が定められていて、我々も一打し、長回廊の階段を昇り、伝燈院に着く。お参りの後、裏の山の上にある「五老峰」を回廊の一部から手を合わせました。



金沢 兼六園

次に向かったのは、「利家とまつ」の寺として有名な「宝円寺」を参拝。押見住職のご学友のお寺でお参りのあと、住職さんのお話とお茶とお菓子の接待を受けました。

午後からは、「天徳院」を参拝。「珠姫・天徳院物語」で、金沢城の歴史の一コマを覗かせてくれました。お寺の第二十五世森田悟由禅師は、後に永平寺第六十四世となられ、大安寺の御開山でもあります。そこで御位牌にお参りしてきました。

いよいよ最後のお寺、「大乗寺」。般若心経を唱えお参りしました。曹洞宗寺院建築の典型的な七堂伽藍が配置されているそうですが、全体を見るとはできませんでした。境内の様子から古刹の佇まいは十分に感じることができました。

今回は、本山参りと曹洞宗開創に縁のあるお寺と、大安寺先代・先々代の住職の法要を兼ねての参拝旅行でした。

おもてなしで有名な「加賀屋」とか「ひがし茶屋街」、「近江市場」など、紙数の関係で割愛しました。悪しからず。

次回、参拝旅行が計画されたなら、是非とも参加してみてください。静謐の中、読経の声が朗々と響き、異次元とも思われる場に身を置いた時、心が洗われる事間違いありません。



石川県七尾市 和倉温泉 加賀屋

# 檀 信 徒 寄 稿 文

## 残された者の務め

住吉町 三浦 孝治

樺太（現サハリン）編

日本政府戦没者遺骨収集団員となつて以来、父が斃れた硫黄島以外の地、今は異国となつた、私が少年時代を過ごした故郷樺太（現サハリン）の戦没者遺骨収集事業にも、戦陣に斃れたご英靈のお蔭で、無事に帰国することが出来た元島民の一人として、参加をさせていただきました。

昭和二十年八月、不可侵条約を一方的に破り、北緯五十度の国境線を超えて侵攻してきたソ連軍から、私達樺太島民を護るために、日本軍国境守備隊・警察官の方々は、重戦車を先頭にしたソ連機動部隊の南下を阻止するため、劣悪な武器で応戦し、一身を省みずに戦闘を開いて、約七百名の方々が戦死をされていたのです。

ソ連軍占領後も、戦闘で斃れた日本兵士・警察官の方々のご遺骸は、収集されることが出来ず、朔北の山林原野ツンドラ地帯の戦場跡に、永い年月敵弾に斃れ

たままの姿で、春は雪解け水に晒され、夏は野草に覆われ、秋は枯れ草の下敷きになり、冬はそのまま凍つて、野晒しとなつて放置されておりました。

元守備隊の兵士の方々、肉親を亡くされた遺族の方々と共に、北緯五十度の国境線地域 半田・八方山・北極山・師走川・幌見峠・古屯等の激戦地跡を、藪や虻等に悩まされながら金属探知機を頼りにして、

熊笹の茂みに踏み込み、草の根や枯草の下、冷たい凍土に埋もれているご遺骨を探索収集する活動に五回参加をさせていただきましたが、平成十七年に収集活動は終了となり、約五百名のご遺骸が見捨てられてしましました。

「護つていただいた自分達が、祖国に帰り平和に暮らしているのに、命を懸けて外敵と戦い散華された方々を、異国の地に放置しておいて申し訳ない」と思つていましたが、平成二十九年度、樺太戦没者遺骨収集活動復活の情報がありますので、期待をしています。



# 平成二十九年下半期の行事報告

**地蔵供養祭**

**兩祖報恩会・万灯供養**

**秋季彼岸会・水子供養**

**盂蘭盆会**

**生前戒名授与式**

七月二十五日(火)午前十一時修行  
お地蔵さまの縁日に因み、地蔵堂で交通安全の祈願をいたしました。  
併せて、大安寺境内に設置されて  
いる皇軍戦没者招魂碑に祀られて  
いる戦死者の供養と本堂において  
新ご本尊さまへのお参りをいたしま  
した。

九月五日(火)午前十時修行  
蠟燭の灯りで御先祖を供養する  
大安寺ならではの万灯供養を行いま  
した。

引き続き行われた両祖報恩会は、

九月二十三日(土)午前十一時修行  
大安寺本堂において、秋季彼岸会・  
水子供養が行われました。  
九月秋分の日を中心に一週間を秋  
彼岸として、ご先祖供養を行う大切  
な仏教行事です。

八月十六日(水)午後一時修行  
大安寺本堂において、ご先祖や  
亡き人の御靈を迎え、丁重におもて  
なしをして差し上げました。施食会  
という供養にて、有縁無縁の精靈に  
供養いたしました。

最後に大本山布教老師 宮城県石巻市  
法山寺副住職 北村暁秀 老師による  
お説教を拝聴いたしました。

秋季彼岸会終了後に生前戒名授与  
式が行われ、檀信徒二十六名の方々  
に戒名が授与されました。  
本来戒名は亡くなつてから付けて  
もらうものではなく、生前に戴くと  
いうのが檀信徒として望ましい姿で  
す。



坐禅体験 (7/16)



二年生お寺学習 (11/22)



十二月八日（金）午前十一時修行  
十二月八日は、お釈迦さまが悟りをお開きになられた日です。  
禅宗では、この十二月八日をお釈迦さまが成道した日とし、僧堂では十二月一日から八日の早晚まで、お釈迦さまの成道にあやかり、坐禅を続けるという厳しい修行を行なっています。

# 釈尊成道会

- 大安寺では、坐禅・写経のつどいの他に、定期的に裁縫奉仕・清掃奉仕・健康講座も行なっています。皆様のご参加お待ちしています。尚、日程は決まり次第お知らせいたします。

- 大安寺住職・長男 大俊だいしゅんが平成三十年四月より駒澤大学仏教学部へ進学することが決まりました。

## ～お寺からの お知らせ～



南幌町菩提寺婦人会 (7/12)



安平町見龍寺婦人会 (9/29)

# 新ごく本尊 ご参拝

- 一月一日（月） 午前0時  
元朝大般若祈祷会
- 二月三日（土） 午後六時  
厄払い追儺会
- 二月十五日（木） 午前十一時  
釈尊涅槃会
- 三月二十一日（水） 午前十一時  
春季彼岸会・水子供養
- 五月八日（火） 午前十一時  
釈尊降誕会
- 七月二十四日（火） 午前十一時  
地蔵供養祭

次号護寺会だより二十号は  
平成三十年八月頃の  
発刊予定です。

# 平成二十九年上半期の大安寺行事予定